

2003～虹の会15年のあゆみ～2018

- ▶2003年4月
新木野地域で「いつまでも自宅に住み続けたい」を
応援するため小さな施設を作ろうとNPOを発会
- ▶2003年7月
特定非営利活動法人「虹の会」
として県の認証許可を取得
- ▶2003年9月
 - ・週数回の集いを開始
 - ・虹の家サロン開催開始
- ▶2003年11月
 - ・介護保険事業の
小規模規模デイサービス開始
 - ・自主事業でお泊りサービス開始
- ▶2006年6月
高額の寄付申し出があり、土地と建物を購入が実現、
介護保険事業の地域密着小規模多機能型居宅介護事業への移行を決定
- ▶2006年10月
虹の会10周年記念行事『「みんなで楽しく語ろう！
「いつまでも自宅に住みたいね」』開催
- ▶2007年6月
有志の方々から多額の長期借入金等により
事業所の改装と増築に必要な資金を確保
- ▶2007年6月
自治会の協力により虹の会ニユースの配布拡大
・新木野地 および あらき野の全戸配布が実現
- ▶2008年3月
 - ・事業所の改装と増築が完了
 - ・地域交流室「たまりんば」活動開始
- ▶2008年6月
介護保険事業の地域密着小規模多機能型居宅介護事業に移行
- ▶2008年5月
虹の会15周年記念行事
映画シアター上映会開催

会員からのメッセージ

虹の会が始まったころは、何から何まで手弁当で、私の家からも不用になった食器類や家具を寄付したものです。

当時、近隣センターでふれあい弁当のボランティアをしていた関係で、虹の家にもよく差し入れに顔を出したんですよ。

今は一人暮らしで人としゃべる機会もありません。でも、「たまりんば」や「サロン」が私にとっては貴重なホケ防止の場で、いつも大笑いしてすっきりして帰ってきます。

こんなに頼りになるところが家のすぐ近くにある私は恵まれているなあと思えます。離れて住んでいる娘も、私のイキイキした姿を見て安心しているようです。

願わくば、虹の会がもっともっと大きくなりますように。そうすれば、どんな状況になっても住み慣れた自宅で暮らせますから。

私がお世話になるころまでには是非お願いしたいですね。

内海 イツ

新木に居を構えてもう40年以上になります。当初は民生委員として地域をまわっていました。そうしたら、家の中にも外にも居場所のないお年寄りの多いことに気づきました。

そんな方々を我が家に呼んではお茶のみ話をしてみましたが、個人の力では限度があります。そんなことを高井さん(虹の会創設者)に話したら、こんな素敵な居場所を作ってくれました。

だから私は虹の会の産みの親(笑)。高井さんが育ての親で、横山くんは・・・申し子かしら(笑)。あれからもう15年ですが、ずいぶん早いですね。

今では私も虹の家に利用登録し、食事やおしゃべりの場として便利に利用させてもらっています。この秋で96歳になりますが、一人で毎日気ままに安心して暮らせるのは、虹の家のおかげです。

新木のお年寄りがますます元気に暮らせるよう、虹の会の益々のご発展をお祈りしています。

圓山 タケ

ご家族、ご支援者の声

母を見送って

虹の家ご利用者の家族



今年、白寿の母(塩田キク)を見送りました。10年の介護生活の中で感じたことがいくつかがあります。

- 1 **聞かれたらありのままを話す** ご近所や、周りの方から介護の様子を聞かれた時に、ネガティブに考えずにありのままをお話しする事で、色々なヒントを頂く事ができたと思います。
- 2 **施設選びの大切さ** 母は虹の会が運営する“虹の家”を10年間利用しました。介護は本人だけでなく家族も巻き込んでしまいます。“虹の家”とは本人の状態や、家族の体調に変化があると、その都度相談しながら、通所だけでなく、泊りや訪問を柔軟に組み合わせ、母の介護に関わってもらいました。本人だけでなく、介護をする家族の様子も含めて考えてくれる。そして、何より気軽に相談に乗ってくれる。そんな施設と信頼関係を築けたことが、母の介護で重要なことだったと思います。
- 3 **近くにかかりつけ医を持つ** かかりつけ医には、長く母のことを診て頂き、本人の状態や性格、人生観まで理解して、母に合わせた、本人の負担にならない医療をしてくださいました。近所に信頼できる医師を持つ事が大切だと思えます
- 4 **家族で自分の終末はどうありたいか話し合っておく** 私たちは20年以上前(母が70代の頃)から尊厳死、終末をどう迎えるか家族で話し合ってきました。意思確認が難しい時期になっても、話し合った本人の意思を思い返しながらかかりつけ医や虹の家と相談しました。代理決定をすることになる人達(夫や妻、子供達)との十分な話し合いが、悔いのない終末には必要だと思います。最期に「親を看取るという事は親が子供にしてくれる最後の教育である」という一文を読んだ事があります。本当にその通りの十年でした。たくさん話し、たくさん笑い、たくさん教わりました。

塩田 憲子

川村学園女子大学 生活創造学部 准教授 佐久間美穂

虹の会・虹の家へ

期待すること



(写真 左から2番目)

私が虹の家に伺うようになったのは、運営推進会議の委員を引き継いだことがきっかけです。大学のある我孫子は名前こそ知っていましたが、虹の家の拠点である新木は初めて知る地域でした。

また、新木野地区は市内でも高齢化率が高いとのことで、そのような地域での宅老所から始まった高齢者福祉の実践に関心を持つたことを思い出します。

運営推進会議の委員は、自治会、まちづくり、居場所づくり、民生委員、お医者さま、行政の方々、地域の店舗、利用者のご家族などですが、その多くが新木の住民の方々です。さらに言えば、地域の問題に対して既に活動をされている方々であり、これは虹の家の強みであると思います。

地域密着型の活動を推進していくためにも、こうしたつながりを大切にしながら、虹の会と「一緒に何かやりたい」と思わせるような新たな展開が生まれることを期待しております。